

授業改善等に関する報告書（2025年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2025 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英文入門ゼミ	島 高行	回答をありがとう。 授業で学んだことを、これからの学びに活かしてください。
英文入門ゼミ	佐々木 真理	半年間、お疲れ様でした！ 難しい課題もあったかと思いますが、 皆さん頑張って取り組んでいて良かったと思います。
英文入門ゼミ	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。扱う教材はどれも本格論文 ですので、難しい点もあったかもしれませんが。けれども、まとめレポートで は、基本的な理解はみなさん十分にできていました。4月の入学当時に比べ て、学術レポートの形式の実践ならびに論文の展開が格段に進歩していまし た。自信をもって、新学年に進んでください。これからも期待しています！
英文入門ゼミ	土屋 結城	大学での学びの入口となる授業だが、「シラバスに記載されている授業の内 容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明 はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやす かったか」といった項目で4.65~4.70の評価を得た。概ね授業の目的は達成 できたと判断して良いと思う。昨年度から英文学科全体で内容を見直し、論 理的な文章の読解とレポート作成に焦点を当てた授業を実施したが、今後の 改善点としては、双方向性をより高めるために、グループワークやレポート 準備の段階から積極的にコミュニケーションを取り、一方的な説明を行うだ けにならないように、学生のアクティビティを充実させながら授業を進めて いくことが挙げられる。また、レポートの書き方についての指導において も、生成AIを使用する際の注意を丁寧に説明するなどして、改善を図りたい。
英文入門ゼミ	柳田 亮吾	この授業は英文学科の3つの専門的な学びについての文献をそれぞれ2つ、計 6つ読み、そのいずれかについてレポートを作成することを目的としまし た。 6つの文献の中には少しレベルの高いものがあり、なかなか理解するのが難 しかったというご意見もありましたので、来年度以降の文献の選定につい ては学科で再考をしたいと思います。 授業はあらかじめ文献を読み、要約した上で、その内容について議論する形 式をとりました。ただ、宿題であった文献要約を授業中にし、ペアやグル ープで議論がなされないということがあり、授業がなかなか進まないとい うことがあったのが残念でした。 また、この授業は演習形式であり、受講生が教員の講義を受動的に聞くの ではなく、積極的に意見や考えを述べるのが求められています。そのため授 業ではマイクを回して発言を求めましたが、回答がなされずに、時間だけ が経過するということが多々ありました。発言にあたっては決して「正しい」 回答をする必要はありません。「わからない」というのも回答ですし、わか らなかつたのであれば、どこまでが理解できて、何がわからなかつたのかを 説明すれば、それは立派な発言です。ただ、質問に対して無言を貫き何も答 えなければコミュニケーションは成立せず、授業は進んでいきません。 私も来年度以降授業の進め方を再考したいと思いますが、受講生の皆さんも 授業への積極的な参加について再度確認いただければと思います。
Comprehensive English b	島 高行	回答をありがとう。 この授業で学んだことを、これからの学びで活かしてください。
Comprehensive English b	濱田 里美	アンケートの回答ありがとうございました。 普段あまり馴染みのない難しいトピックもあったかと思いますが、 この授業を通して、みなさんが英文を読む体力がついたことを実感できてい たら幸いです。
Comprehensive English d	村上 まどか	久しぶりにいわゆる「普通の英語」を教えたのですが、履修者の3分の一に あたる回答者全員から高評価をいただけて安心しています。年とともに教え 方が下手になっているかという懸念がありましたが、むしろよくなりました。 回答者の学生さん達、ありがとう。
Comprehensive English d	濱田 里美	アンケートの回答ありがとうございました。 この授業で得た知識を今後の専門的な学びに活かしてもらえればと思いま す。
プロジェクト科目 b	鹿島 千穂	開講初年度としてはまずまずの評価をいただけたと思います。外部講師の技 術指導と担当教員のファシリテーションがうまくいくよう、いただいたアン ケート結果や期末レポートの振り返りコメントを参考に、次年度の授業内容 をブラッシュアップしていきたいと思っています。
English for Gender Studies I c	深瀬 有希子	アンケートに回答いただきまして、ありがとうございました。内容的にも英 語力的にもなかなか難しいところもあったかと思いますが、みなさん真摯 に臨んでくださり、こちらも充実した時間でした。本授業で得た英語力と思 考力、そしてやりぬく力に自信をもって、次年度に進学してください。ます まず期待しています！

[2025 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
English for Cultural Studies I c	諏訪 友亮	全体的にアンケート結果は良かったが、説明の分かりやすさ、質問のしやすさでは満足度が低かった。英語の授業ではあったが、日本語でもなるべく補足していきたい。また、第13週、第14週が授業内試験のためアンケート入力時間を確保できなかった。来年度からは時間を設けられるよう改善していきたい。
ジェンダー表象を考える b 水曜配信 (渋谷)	諏訪 友亮	すべての項目で全体平均を上回り、学生の皆さんには比較的満足いただけたのではないかと理解しています。来年度以降も、授業内容を細かくアップデートしていきたいです。
グローバル英語圏文化への招待 b	深瀬 有希子	アンケートに回答いただきまして、ありがとうございました。日本とかかわりの深いUSAがどのように形成されたか(され続けるのか)また、「アメリカ」との違いは何なのかについて理解くださってようで良かったです。それは最後のまとめテストからも十分に伝わってきました。また、対面授業への参加もありがとうございました。対面のよさもありますので、こうした機会を継続したいと思います。(オンデマンド配信につきましては、毎週朝9:00配信、アンケート回答には1週間を設けるとしてきました。配信は毎週規則的になされ、アンケート回答期間も決して短くはないと思います。なかには、授業動画配信日同日中や3日以内に回答といった授業もあるようです。これについてコメントくださった方は、他の授業と混乱されているのかもしれない…ご確認いただければ幸いです…)
グローバル英語圏文化を考える b 木曜配信 (渋谷)	島 高行	回答をありがとう。 この授業で学んだことを、これからの学習に活かしてください。
言語学への招待	猪熊 作巳	オンデマンド授業の宿命かもしれませんが、各回の授業への取り組み姿勢が大きく二極化しました。専門的な知識を身につけるには地道な努力も重要です。
言語学を考える b 木曜配信 (渋谷)	村上 まどか	新カリキュラム新授業名称向けに、動画を作成しなおしたかがあり(全部ではありませんが)、おおむね良好な評価で安心しました。もう少し回答者が増えるとよいのですが、オンデマンド科目ではそれは難しいのかもしれないね。
SNS英語	野村 美由紀	毎回の授業で、予習とmanabaの小テスト課題の両方で大変だったかと思いますが、意欲的に取り組んでくれまして、授業も進めやすくてありがたかったです。 この授業に、概ね満足できたようで、良かったです。
言語習得論 月曜配信 (渋谷)	猪熊 作巳	学期後半にかけてかなり専門性の高い内容に踏み込みましたが、各回のコメントや期末課題の中に熱心に取り組んでくれた跡が見られました。
ブック・セミナー	柳田 亮吾	この授業では英文学科の3つの専門的な学びに関する新書をそれぞれ1冊ずつ、計3冊読みました。 受講生の数が少ないということもあり、読んだ書籍について授業内で活発に議論ができて、理解が深まった点がとてもよかったですと思います。 また、文献を読んでその内容を要約するというのは大学生に求められる基本的な能力なので、その力がついたというコメントはとても励みになります。今後も興味のある本を是非積極的に読んでほしいと思います。
ジェンダーと私/私たち b 水曜配信 (渋谷)	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。毎回のアンケートや、パワポスライド制作、そしてまとめテストから、授業内容に真摯に向き合い、そして自分の言葉で表現する姿勢が伝わってきました。学びをさらに深めていただければ幸いです。
イギリス文学史 b 月曜配信 (渋谷)	土屋 結城	18世紀以降のイギリスの文学についての理解を深めることを目的とした授業である。授業アンケートでは「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.75~4.88の評価を得た。オンデマンド形式での授業で、毎回動画を配信し、小テストで課す課題に取り組んでもらったが、授業形態、内容に関して、一定の理解は得られたように思う。今後の改善点としては、オンライン授業での双方向性の確保、アンケート回収率が上げられる。manabaの個別指導を用いたり、学生のコメントを丁寧に紹介したり、参考文献を手厚く紹介するなどして改善に取り組みたい。また、アンケートについては、早めに告知して回収率を上げるように努めたい。
アメリカ文学史 b 金曜配信 (渋谷)	佐々木 真理	半年間、お疲れ様でした！ この授業を通してアメリカ文学に興味を持って 今後の勉学に活かしてもらえたら嬉しく思います。

[2025 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
世界の英語 木曜配信 (渋谷)	柳田 亮吾	この授業では英語・日本語の多様性を理解しつつ、社会言語学の基本的な考え方について学びました。 授業の基本的な理念は、社会言語学の知識を身に付けるだけではなく、その知識をもとに身近で使用されている言語を分析・考察する、つまり社会言語学を実践することでした。授業で得た知識をもとに、実際に言語データを収集・分析するのが必ずしも容易ではなかったという意見もいただきましたが、多くの皆さんがレポートで興味深い言語現象の分析をしてくれていたと思います。 例年課題の量が多いとご意見はいただくのですが、この授業の事前学修・事後学修はそれぞれ2時間ずつと定めており、その範囲内ではあると思います。来年度以降の授業外の課題については、よりよい形を考えていきたいと思っています。
英語学演習 b	柳田 亮吾	この授業ではディズニーのプリンセス映画に関することばとジェンダー研究についての英語文献を読み解きつつ、Raya and the Last Dragonの分析を行いました。 英語文献は結構レベルの高いものでしたが、みなさん毎回予習をしっかりとできてきたので、授業で十分に議論をすることができました。ただ、予習に多くの時間がかかることに対する不満をコメントとしていただきましたので、来年度以降は予習の範囲・量について再考したいと思います。 また、Raya and the Last Dragoの分析にあたっては、文献講読で得た知識をもとに、社会言語学・語用論的な分析ができていました。 4年次で言語学系のゼミに進まれる人がいないのが残念ですが、この授業の経験が卒論執筆に何らかの形で役に立てば幸いです。
英語学演習 d	野村 美由紀	授業の学習内容については、概ね理解できたようで良かったです。 板書や配布資料でわかりにくい部分があったようでしたので、配布資料のうちで、特に参考資料については、授業内容とのつながりが一見して分かるような説明を付け加えるべきだったと思っています。板書については、量も多いので、なるべく見やすく、分かりやすくなるように心掛けたいと思います。
アメリカ文学・文化講義 d 火曜配信 (渋谷)	稲垣 伸一	ほとんどの学生さんが毎回の授業に向き合い、よく理解してくださっていたことがコメントシートや期末課題から感じられました。この授業で扱った英語圏やヨーロッパの近代について理解を少しでも深めてくださるとうれしいです。 お疲れ様でした。そしてお付き合いいただきありがとうございました。
卒論セミナー b	稲垣 伸一	みなさん、しっかり卒論に取り組んでくださったと思います。 ゼミで身につけた論理的な文章の書き方を今後なかに役立ててくださるとうれしいです。 お付き合いいただきありがとうございました。そしてお疲れ様でした。
卒論セミナー b	猪熊 作巳	多くの学生が意欲的な(つまり難しい)トピックに挑戦しました。当初の計画通りに進まなかった学生も多いかもしれませんが、限られた時間の中で精一杯の努力をしてくれたものと思います。
卒論セミナー b	佐々木 真理	卒論執筆、お疲れ様でした！ 大変だったと思いますが、皆さんよく取り組まれました。
卒論セミナー b	島 高行	卒論執筆は大変だったでしょうが、皆さんよく頑張りました。 卒論は大事に保管してください。
卒論セミナー b	諏訪 友亮	今年度のゼミも多くの学生が意欲的に取り組んでくれた。熱意のある授業は20代前半の学生から敬遠される傾向が強まっているとのことなので、抑制的に、ただし今まで以上にきめ細やかな卒論指導と頻繁のペース確認としながら進めていきたい。
卒論セミナー b	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.83~5.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、アンケート回収率の向上と事前事後学修の充実が挙げられる。アンケート回収率の向上のために、授業時やmanabaでの告知を徹底していきたい。事前事後学修については、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論の向けてのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容の内容を見直したい。

[2025 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー b	難波 雅紀	<p>前期の「卒論セミナーa」では、卒論のテーマや題材を確定させ、論文の構想・構成を各自で練り上げることに取り組みました。後期の「卒論セミナーb」では、練り上がった論文の構想・構成をより具体化し、卒論の目次をまず作成しました。その上で、目次に沿うような流れで論文原稿の執筆と推敲を重ねていきました。ひとり10回程度の個人指導を行ない、最終的な卒論完成に至りました。</p> <p>卒論作成に係わって多くある誤解は、原稿を書くという行為が作業全体の大半を占めるというものです。原稿用紙換算で60枚以上になる文章をひとつのテーマで書くためには、事前に、テーマと題材の結びつけ方、それを具体的に論じていくストーリーを入念に立て、それに係わる資料の収集と整理を十分に行なう必要があります。そして、実はそれに費やす時間や労力の方が、文章を書く行為に割くよりも圧倒的に多いのです。卒論作成を首尾よく進めるためには、まずこの事実をしっかり認識しなければなりません。</p> <p>そういうわけで、書く前提として不可欠な上記の作業にあまり重きを置かなかった学生は、実際に文章を書いているうちに、何をどう書けばいいのかわからなくなってしまい、立ち止まってしまうことが多かったように思います。文章を推敲したくても時間がなかったのではないのでしょうか。</p> <p>書くということは、自分の語彙で自分の内面や考えを上手く他者に伝える、人間にとっての必須の手段です。言葉には儚く脆い面もありますが、そのことを分かって丁寧に、誠意を込めて書くことが大切です。</p> <p>以上</p>
卒論セミナー b	深瀬 有希子	<p>アンケートへの回答をありがとうございました。後期は、みなさんの議論がますます深まり、充実した卒業論文が完成したと思います。この、やり切る力に自信をもって、卒業後も自分らしく過ごしてほしいとおもいます。(少し早いですが、卒業おめでとう！)</p>
卒論セミナー b	村上 まどか	<p>卒論クラスには回答呼びかけをすっかり忘れていました。前日打ち上げの日に思い出し、でもこの科目は答えにくいし、あと一日でやれというのも……と思って言わないでおきましたのに、忘れずにやってくれた人がいて、しかも「ご祝儀回答」と呼ばれるような高評価をありがとうございました。</p>
卒論セミナー b	柳田 亮吾	<p>ほとんどの皆さんが計画的にデータの収集、分析を行い、卒論を執筆してくれました。結果、レベルの高い、非常に面白い卒論が多く出来上がりました。とても読みごたえがありました。卒業後も卒論作成の経験が何らかの形で活かされれば幸いです。</p>
Academic English	濱田 里美	<p>アンケートの回答ありがとうございました。この授業で得た知識を、今後の専門的な学びと卒論の執筆に活かしてもらえればと思います。</p>
Academic English	稲垣 伸一	<p>受講したほとんどの学生さんが事前の課題に取り組み、授業中も積極的に参加して課題を提出してくださっていたと感じています。この授業を英語の実力アップのために活かしてくださり、さらに、社会問題にも関心を持ってもらえたらうれしいです。ありがとうございました。</p>
Academic English	猪熊 作巳	<p>安定して各回の小課題に取り組む学生が多く、その延長として期末課題にも優れたものが多く見られました。この調子で継続的な努力を続けましょう。</p>
イギリス文学・文化演習 b	土屋 結城	<p>チャールズ・ディケンズの作品『クリスマス・キャロル』を読み、19世紀のイギリス社会、階級、クリスマス文化についての理解を深めることを目的とした授業である。「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.87/4.91の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関する理解は得られたと思う。今後の課題としては、事前事後学修の充実やさらなる英語力の強化、授業内容の充実が挙げられる。事前事後学修については、事前学修をより統計させる、参考文献をより手厚く紹介するなどして改善を図りたい。英語力に関しては、生成AIの台頭を利用しつつ、授業内外の課題内容を工夫して改善を図りたい。</p>
イギリス文学・文化演習 d	諏訪 友亮	<p>概ねアンケート結果は全体平均を上回っていたが、「あなたがこの授業で自分に成績をつけるとしたら、成績評価は何ですか？」のみ著しく低かった。受講生の成績評価は悪くなかったため、授業内で受講生に自信を持ってもらえるよう工夫していきたい。</p>

[2025 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学・文化演習 h	篠原 健吉	お忙しい中アンケートにご回答くださりありがとうございました。 全体についての項目にある成績評価や意欲的な取り組みの点においてやや控えめな評価となっていました。みなさま毎回しっかり頑張ってくださいね。授業を通じて『冬物語』を読むことができ、またみなさまのご意見をお聞きすることができ、とてもありがたく思っています。かえって勉強させていただいたように思います。今回の授業が一つのきっかけとなり、またどこかでシェイクスピアの作品に触れる機会を持つことができますよう願っています。半期間、大変お疲れ様でした。
特殊演習 d	野村 美由紀	授業内容は、概ね理解できたようで、良かったです。 この授業では、日英語比較を扱いましたが、英文学科では、日本語についてはあまり習わないでしょうから、英語についてよりも日本語についての説明の方が難しく感じられて、わかりにくい部分があったかと思います。日本語については、もう少しわかりやすく説明した方がよかったですと反省しております。
イギリス文学・文化講読演習 b	島 高行	回答をありがとう。 参考にします。
アメリカ文学・文化講読演習 b	稲垣 伸一	ほとんどの学生さんが少し難しめの作品に取り組んでくださったと思います。英語を細かい点まで注意して読むことを心がけてきましたが、読解力を養うことができ作品に対するアプローチも理解してもらえたらうれしいです。ありがとうございました。
英語学講読演習 b 金曜配信 (渋谷)	猪熊 作巳	オンデマンド形式の演習科目として挑戦的な手法で授業を進めましたが、それぞれが工夫を凝らして授業に参加してくれました。